

風景づくり先導地区の紹介

首里城周辺地区 **那覇市**

かつてそのまちなみは、首里城を中心に石畳道、石垣と屋敷内の樹木が調和した全体が庭園のようであったと言われていた首里城周辺地区では、首里金城町地区や龍潭通り沿線地区を中心に、古都・首里の城下町にふさわしい沿道景観形成が進められています。先導地区の認定要件と沖縄県の景観形成に対する支援策（沖縄の風景づくり人材育成事業）を活用した地域の取組みを紹介します。

風景づくり先導地区認定要件

要件1 都市景観形成地域

- ・首里金城地区：平成6年4月に指定。
- ・龍潭通り沿線地区：平成14年12月に指定。

要件2 首里杜まちづくり推進協議会

- ・計画に基づき、新・首里杜構想による歴史まちづくりを推進することを目的として令和4年9月21日に設立。
- ・地域、事業者、学術機関、行政などの各関係機関から構成されている。
- ・地区のまちづくりに関する各主体が、計画に示した地区の将来像を共有し、そのために必要な取組等について議論する場としての役割を担う。
- ・また、計画に位置づけた取組の具体的な調査や検討など計画の実施主体としての役割も担う。

要件3 首里杜地区整備基本計画

- ・計画の意義
本計画は、「首里城復興基本計画」の基本施策に位置づけられた「新・首里杜構想による歴史まちづくりの推進」を目的として、首里杜地区に関連する国、県、那覇市の分野別計画と整合を図りつつ、歴史まちづくりの目指す姿や具体的な施策などをとりまとめた整備基本計画とし、計画期間における各取組の具体的なロードマップを整理するものである。
- ・計画期間：2022(令和4)年度～2031(令和13)年度までの10年間
- ・基本方針
(1) 古都首里を感じられる空間の創出
(2) 歴史文化資源等の保全・整備・活用
(3) 暮らしと観光が両立したまちづくり



歩いて、見て、楽しいスーヅグワづくり

- 龍潭通りはかつて士族の屋敷が建ち並んでいた首里城に近接する通りであり、その沿線地区は現代においても首里の観光・商業の核であり、首里城城下のメインストリートとなっている地区です。
- 大中町自治会では、活用されていなかった大和井戸(ヤマトガー)にポンプを取り付け、石張りによる修景を行い、今では周囲の草花の水やりなどに利用されるなど水と潤いのある風景を再生しています。
- 当蔵町自治会では、地元や観光客にも目につきやすい天王寺井戸とその周辺に琉球石灰岩張りによる修景とヘゴポット等による植栽を行っています。



ポンプ取り付け



ヤマトガー



ブロック塀に琉球石灰岩を張り付ける作業

「生まれてよかった」「育ってよかった」「住んでよかった」みんなが誇る金城町

- 首里城の城下町として栄えた地域で、世界遺産のひとつである玉陵や、400年の歴史を物語る石畳道などがあり、歴史的景観を残す地域です。また、アカギ群生周辺は、ムーチー(鬼餅)発祥の地として知られています。首里城に近接することから、国内外の観光客も多く訪れています。
- ムラヤー子ども会・青年会や地域のサークル等の活動を通じて、ムラヤー花・緑いっぱい活動、金城町案内リーフレット作成、石畳道を照らす竹灯籠づくりなど、地域コミュニティの形成と若手の人材育成を図る活動を展開しています。



集合写真



鬼ムーチー由来の紙芝居



灯りのともった竹灯籠

風景づくり先導地区の紹介

浦添グスク周辺地区 **浦添市**

風景づくり先導地区として認定された浦添グスク跡周辺地区は、市のシンボルである浦添グスクを中心に周辺の地区や道路において、住民の取組、市の事業、浦添前田駅周辺整備や歴史的景観に配慮した沿道のまちなみ形成が進められています。地区住民等を対象とした人材育成事業(沖縄県の景観形成に対する支援策)で実施した取組を紹介します。

■風景づくり先導地区認定要件

要件1 景観地区(県道浦添西原線沿線地区)

浦添グスク麓であり、市のシンボルロード(浦添都市軸)の一端を担う地区であることから、浦添グスクのバッファゾーンとして、質の高い市街地の形成を図るため、平成27年9月29日に景観地区を指定。

要件2 景観重要公共施設(県道浦添西原線)景観協議会

平成28年9月30日に県道浦添西原線の区間を景観法に基づく景観重要公共施設に指定。
浦添西原線について、関係行政機関、事業者、地域住民等の様々な立場の関係者が、指定区間内の良好な景観形成を推進するために必要な協議(意見交換)を行うことを目的に設置。

要件3 浦添市景観向上行動計画

計画の役割
道路、公園・緑地、文化財、都市計画、景観まちづくり等との連携・協力のもと、景観地区指定の景観誘導を対象とした地区やその地区を含む周辺地域の景観向上を図るために必要な取り組み等を明らかにし、具体化につなぐ役割を担うものである。

計画期間
2012(平成24)年度～2021(平成33)年度までの10年間(※R5d改定予定)

基本目標(浦添グスク周辺エリア)

- (1) 浦添グスク周辺にふさわしい景観の形成を広げる
- (2) 緑や歴史文化、賑わいの創出など歩いて楽しいまちづくりを進める
- (3) 地域への愛着を高める



「ワリカジー」
ライトアップ
前田地区

仲間地区



実地研修の様子



ヒハツモドキを植え、ブロック塀緑化



県道浦添西原線沿線地区景観地区の
建物等の景観形成イメージ

■浦添グスクのふもと仲間集落を緑と花でいっぱい

- 琉球王朝の歴史を有する浦添グスクを背後に発展した古い集落であり、浦添市景観まちづくり計画における重要かつ先導的なモデル地区として「重点地区」に定められています。
- 仲間自治会が中心となり、伝統のある仲間集落の中央に位置している浦添グスクへ通じる道沿いの緑化、ブロック塀の壁面緑化、ようどれ館から浦添グスクまでの沿道花壇整備など、緑いっぱい色とりどりの花であふれる歩いて楽しい沿道景観づくりを行っています。



■浦添市の魅力アップとアイデンティティの形成に向けて

- 浦添グスク丘陵東端にそびえ立つ巨岩・ワカリジエをシンボルとして仰ぐ地区です。井戸や拝所が多く、新暦8月に前田棒術と綱引きが演じられています。市内で最も高いワカリジエは、地区の要所、小学校やモノレール車窓からも浦添のランドマークとしての存在感を放っています。
- 浦添グスクにふさわしい風景まちづくりを目指し、浦添市の発展、繁栄・安泰の願いを込めて、浦添グスク東端の巨岩ワカリジエのライトアップを実施しています。令和5年度には、前田自治会(OB会・青年会)と前田小学校PTAが共催し、親子で手づくりしたペットボトルライトでワカリジエまでの遊歩道ライトアップを実施しました。



令和4年度ワカリジエライトアップ



令和5年度遊歩道ライトアップ ※右写真提供:前田自治会(OB会・青年会)

